

水辺のまちづくりの新たな可能性 HARMO艇が切り拓く徳島の未来

徳島市では、水辺のまちづくりの新たな取組として、次世代電動推進機「HARMO(ハルモ)」を搭載した電動船HARMO艇を導入しました。HARMO艇は低振動・低騒音で、環境にやさしく快適な操船が可能です。導入を記念して2025年10月24日に船上座談会が行われ、遠藤市長をはじめ、ヤマハ発動機の吉田様、喜多機械産業の喜多社長、NPO法人新町川を守る会の中村代表が、まちづくりにおける官民連携の重要性や、徳島の未来像について語り合いました。



市長

徳島市は令和4年5月に国から「SDGs未来都市」に選ばれており、SDGsの実現に向けた取組の一つとして「ひょうたん島周遊船の電動化」を進めてきました。事業実施に当たって、ヤマハさんには本当に色々と協力していただきありがとうございました。

吉田さん

私たちはこれから時代にふさわしい新しい動力の一つとして、電動推進機「HARMO」の開発に取り組んできました。徳島市さん、新町川を守る会さんは2023年から3年にわたり連携し、実証実験を行ってきました。何度も試乗会やイベント開催をともに行うことで、HARMOの性能だけでなく、実際の活用方法も含めて現場でテストができたことに大変感謝しています。

中村さん

HARMO艇は非常に音が静かで、これまで

になかった川の楽しみ方が広がったと思います。導入に至るまで徳島市さんやヤマハさんに大きく力添えをいただきましたので、これからは私たち市民が新たな楽しみ方を提供し、にぎわいを作っていく番だと思います。

市長

これからが本当に楽しみです。そして今回、電動船への給電に当たり、喜多機械産業さんからもリユース太陽光パネルを用いた事業協力を申し出いただき、ありがとうございました。

喜多さん

これまで徳島市さんとはライフル射撃場でリユース太陽光パネルの実証実験を行ってきましたが、今回、水都とくしまを象徴するひょうたん島周遊船が電動化されるという話を聞き、地元企業として何か貢献したいという思いから、声をかけさせてもらいました。

市民の皆さんにはHARMO艇を知ってもら



うと同時に、リユース太陽光パネルや再生可能エネルギーにも関心を持ってもらえばと思います。

市長

企業の皆さんからのご協力の提案は本当にありがとうございます。どうしても自治体だけできることには限界がありますから。初めに申し上げましたが、徳島市は「SDGs未来都市」に選ばれていますので、全国の地方自治体のモデルとなる役割を背負っています。行政と民間企業が連携して、新たな魅力づくりや

参加者のプロフィール



徳島市長 遠藤 彰良
1955年10月27日生まれ。四国放送(ラジオ・テレビ)にアナウンサーとして入社。平成28年に初めて徳島市 市長に就任し、令和6年に再び市長に。政治信条として「公平・公正・透明な政治」を掲げている。



NPO法人 新町川を守る会 理事長 中村 英雄
1990年「新町川を守る会」を結成し、1999年にNPO法人化。川の清掃や水際公園の整備、イベント開催などを通じて「水の都・徳島」を支えるまちづくりを推進。団体自治大臣表彰など受賞多数。



ヤマハ発動機株式会社 マリン事業本部 国内事業推進部長 吉田 竜也
1992年にヤマハ発動機へ入社し、水上オートバイやボートの開発に従事。33年間にわたりマリン技術の第一線を歩み、2022年よりプール事業を含む現職で、国内マリン事業の発展に尽力している。